

ちくさんスナップショット

平成 27 年 3 月 第 46 号 株式会社富士飼料

【乳製品値上げどうなる？】

乳業大手メーカーが 4 月 1 日から家庭用バターやチーズなどの一部商品の値上げを発表しています。バター不足が懸念されている昨今、価格値上げにより消費者が買い控えに走り商品過剰になるのでは・・・ある紙面の記事がありました。別の紙面にはこんな記事が。(一部抜粋)

「高級志向などにシフトしてきているのに、スーパーは安売りをしなければという方向に動く。例えば、牛乳が 178 円で売れなかったら、もっと安くしようということになる。原因は価格ではない。売れなかったことを価格のせいにするので販促の質がどんどん落ちる。何故買わなかったのかを徹底的に調べるべきだとショッピングアドバイザーが警鐘を鳴らした・・・。」

この二つの意見、果たして 4 月 1 日以降どうなるのか。どちらも企業努力が大切なのは変わりないと思いますが。私はどちらかというとな後に賛成です。

【宮城県南 TMR 専任：斎藤勉】

【酪農】蹄病について

酪農栄養や飼養管理が専門のダナ・トムリンソン博士が講師となる、蹄病についての講習を先日受講してきました。

跛行は全ての面から酪農経営を脅かしていくもので、生産性、繁殖、早期淘汰の危険性を広範囲に影響を及ぼす疫病であるので問題をいち早くキャッチして跛行対策に取り組む必要がある。カウコンフォートや削蹄が跛行を引き起こす要因にもなっているとも。

小さなフットシグナルを見逃さず、跛行になった場合でも早期に適切な処置を施す重要性をダナ博士は説いています。微量ミネラルやビタミン給与もより効果が上がるとの事です。ダナ博士の熱弁にとっても有意義な講習となりました。

私達富士飼料社員は様々な研修・セミナーを受講し自己の知識を高めるのは勿論、その情報や知識をお客様へ還元出来るよう今後も努めてまいります。

【宮城県南 TMR 専任：斎藤勉】

北米港湾ストライキ影響つづく

6 月末で期限満了となった北米西岸の港湾労組と使用者の労使交渉は、ストライキなどの強硬手段をとらずに表面的にはストなしとし、平和的な労使交渉が続いていました。ところが最近、労使の綱引きで緊張が高まっていると報道されています。使用者側の報道によると、10 月末から北米西岸港湾のうち北部地区のタコマ港・シアトル港でスローダウン戦術が始まり、両港でのコンテナ荷役が通常の 40~60%まで低下しているとのこと。ロサンゼルス港・ロングビーチ港から北部地区のタコマ港・シアトル港にシフトしている貨物も増えており、労組側としては、機材・人力的にキャパを超えていることが荷役スローダウンの原因と反論しているようです。

コンテナ船には荷役のためのクレーンがついていません。岸壁にあるコンテナ専用クレーンで荷役作業が行われます。そのため岸壁側の作業が遅れればコンテナ船は海上で待っていなければならないのです。このことによってコンテナ船がスケジュールどおりに運行できなくなります。

国際養鶏養豚総合展 (IPPS) 6 月 10 日~12 日

国際養鶏養豚総合展 (IPPS) は、養鶏・養豚経営の近代化・効率化を図ることを目的に、生産から流通に関する世界最先端・最新鋭の施設・機械器具・資材・技術を一堂に集めた展示会です。養鶏・養豚に関する展示会としてはわが国最大のもので、3 年ぶりに開催されます。◆展示会と併せて「養鶏・養豚講演会」「最新資材・技術のプレゼンテーション」も実施されます。◆新情報に触れる事で、日頃のお困り事の解決・改善のヒントがあるかもしれません。不定期での開催となっておりますので、この機会に是非ご参加ください。若鶏会は今回も視察参加予定です。

【東北支店：二瓶洋一】



着地点の探り合いが続いているようですが、コンテナ船の遅れにつながらないように望みたいものです。当社も在庫を切らさない様に牧草メーカーに常時納品を促しておりますが、納品日のご希望に沿うことが難しい状況になりつつある事を、ご理解のほどよろしくお願い致します。

【東北支店 宮城岩手担当：松浦卓也】

【酪農】危機に瀕する日本の酪農

河北新報朝刊 2月15日号に表題の特集が見開きで掲載されておりました。今回は記事内の日本大学生物資源科学部教授小林信一さんの「なぜ日本の酪農は衰退したのか」という寄稿を一部抜粋し紹介致します。

『なぜ酪農を中止する農家が多くなったのか。たとえば平成19、20年の輸入飼料価格の高止まりが続いた時には酪農所得は1時間当たり700円台にまで急減してしまい多くの酪農家が経営破たんした。また1月に発行した日豪EPAやTPPの影響を心配し、多額の借金などを負わないうちにやめようという経営が多くなっている。米国は乳価と飼料価格の差額を補填する制度があり、EUでは直接支払いによる所得保障が行われているが日本の所得保障制度は不完全である。安心して若い後継者や新規参入者が経営できるセーフティーネットの整備が不可欠となっている』

近頃TPP交渉、農協改革など話題の絶えない農業業界ですが本当に酪農家にとっての助けとなることは何なのかをしっかりと検証してほしいものです。

【宮城県南・福島担当：沼田幸朗】

【資材】アイデア資材のご紹介

農場でのアイデア資材をひとつご紹介したいと思います。農場内では木製の板（コンパネなど）を壁や床に敷いたり、柵に取り付けて雨除け、風除けにしたり、移動させるときの追い込みに使用したり、様々な用途で使用しています。しかしコンパネは、長い間使用していると、板が水を吸って重くなったり、表面が毛羽立ってきて歪んだり、はがれてきたりします。そこで、それに代わる資材としてダンプラ（またはプラダン）というプラスチック製の板があります。「プラスチック製の段ボール」の略であり、文字通り段ボールの構造をプラスチックで作った板で、いろいろなサイズ、厚みがあります。

このダンプラは、厚みの割に軽く、そこそこの強度もあり、水に強く、保温性もあるという特性があります。また薄いものならカッターで切れるので、お好みのサイズに切るもの簡単です。畜産用として販売されているものもあり、価格はコンパネとそう大きく変わらないようです。インターネット等で検索すればたくさんの商品がヒットしてきます。

コンパネを使用してきた用途に置き換えて使用すると非常に使い勝手が良いようです。それぞれの用途に応じたサイズと厚さを選べば、家畜にとっても人間にとっても環境改善につながり、作業性も上がるものと思われます。一度、お試しになってみてはいかがでしょうか？

（日清丸紅飼料 HP より一部抜粋）

【東北支店 大崎流通センター：佐藤研治】

デーリィ・サポーター（DS）スタッフ大募集！



酪農に歯止めをかけ、雇用の確保、更には農場の規模拡大まで繋がるようサポートしたい。お客様の持続経営をサポートし、共に発展していきたい、という想いがあります。

**一緒に酪農したい方！動物大好きな方！
ご紹介下さい**

詳しくは、担当：津田までご連絡・ご相談ください！（0223-22-2690）